

科目名		国語Ⅳ (Japanese Ⅳ)							
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第4学年	物質工学科	学修	1単位	必修	講義	後期 100分/週	45時間		
担当教員		【常勤】 赤迫照子							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	(1)読む力: 和歌を解釈し鑑賞できる。収集した資料を読解できる。レジュメを読み、発表内容を理解することができる。変体仮名が読める。 (2)書く力: レジュメと読み原稿を作成し、自分の考えを的確に表現できる。発表のポイントについてメモがとれる。コメントペーパーに発表者・司会者に対する批評やアドバイスが書ける。 (3)話す力: 聞き取りやすい話し方で、発表・質疑応答・司会進行ができる。話しことばと書きことばの違いをふまえて話すことができる。課題に応じて質疑応答や討論ができる。 (4)聞く力: 発表のポイントを聞き取れる。質疑応答でとりあげられていることが理解できる。								
学習・教育目標	(G)①	JABEE基準1(2)			(f)				
関連科目, 教科書および補助教材									
関連科目	国語Ⅰ、国語Ⅱ、国語Ⅲ								
教科書	プリントを配付する。								
補助教材等	変体仮名を読むので「字典かな―出典明記 改訂版―」(笠間書院)が必要である。								
達成度評価 (%)									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		20			80				100
知識の基本的な理解 【知識の基本的な理解】		○			○				
思考・推論・創造への適用力 【適用、分析レベル】					◎				
汎用的技能 【 】					◎				
態度・志向性(人間力) 【 】					◎				
総合的な学習経験と創造的思考力 【 】									
学習上の留意点および学習上の助言									
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業で行うのは、文学研究である。研究はどの学問分野であっても「具体的な根拠をもとにして論を展開する」ことを基本とする。したがって、本授業ではあなたの「感想」は求めない。根拠を伴った「意見」を提出してもらおう。 ・その意見が妥当か否かを、クラス全員で検討する。発表者はクラス全員が問題共有できるように、わかりやすく簡潔な説明を心がける。 ・司会者は、意見交換が活発に行われるように努力する。沈黙を作らないように工夫する。 ・本授業は情報学の授業としての側面をもつ。書物という器によって情報が伝達されてきた歴史をしっかりと学習してほしい。 ・発表のために、図書館で調査作業を行う。インターネットで検索しても、本授業で必要な情報は得られない。図書を用いて調査をコツコツと丁寧に取り組むこと。 									

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス①	・シラバスを熟読し、授業概要、学習到達目標、授業の明細等を理解する。 ・発表及び司会進行の手順やレジュメの作成方法を理解する。	復習として、以下のことに取り組む。 ・変体仮名を読む練習をする。 ・授業で配付されたプリントを読み直し、確実に理解しておく。
2	ガイダンス②	・質疑応答では具体的にどのようなことを述べればよいのかを理解する。 ・聞き取りやすい話し方を習得する。 ・発表を聞き、重要なポイントについてメモをとる方法を習得する。	
3	発表準備	・コメントペーパーの書き方を理解する。 ・変体仮名の読み方を学習する。 ・和歌の基礎知識を学習する。	
4	発表①	<p>・和歌の発表を通して、文章や口頭で説明をする力を高めることができる。</p> <p>・発表の手順は以下の通りである。 ○発表は1名ずつ、各自一首を担当する。 ○レジュメは和歌の翻字本文と字母、語釈、解釈、鑑賞と問題点を記す。 ○レジュメによる発表の後に質疑応答を行う。 ○発表の最後に司会進行役がまとめを述べる。 ○発表や司会進行に対する感想、意見、アドバイスをコメントペーパーに書き、提出する。</p>	<p>・発表準備に早めに取り組む。 ・各発表の良かった点と悪かった点を整理し、自分の発表に活かすようにする。 ・発表者と司会者は提出されたコメントペーパーを読み、良かった点と悪かった点を整理する。</p>
5	発表②		
6	発表③		
7	発表④		
8	発表⑤		
9	発表⑥		
10	発表⑦		
11	発表⑧		
12	発表⑨		
13	発表⑩		
14	発表⑪		
期 末 試 験			
15	試験返却・解答解説 まとめ 授業改善アンケートの実施	・解説を聞いて間違った箇所を訂正する。 ・何をどのように間違えたのかを振り返った上で、正答を理解する。 ・学習事項のまとめを行う。	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			25 時間
自学自習			20 時間